

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

歯科医師国家試験 3年連続全国第2位！

第116回歯科医師国家試験合格発表 本学新卒者合格率 93・1%

厚生労働省は3月16日（木）、第116回歯科医師国家試験の合格者を発表した。本学の新卒者合格率は93・1%で、第114回の95・4%、第115回の90・4%に続き、今回も90%を超えた。全国29歯科大学・歯学部の中でも、トップの東京歯科大学に次いで3年連続第2位となった。

第116回歯科医師国家試験においては、本学の新卒受験者58人中54人が合格し、合格率93・1%の好成績を収めた。今回、新卒者の学校別合格率で90%を超えたのは、東京歯科大学、松本歯科大学、鹿児島大学歯学部の3校のみであった。

また、昨年卒業したが惜しくも国家試験不合格となった既卒者8人中7人は見事に雪辱を果たし、新卒および既卒合わせた合格者数は合計62人（合格率70・5%）と健闘した。

本学は、2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）発生に対して、厳しい感染対策の下、対面授業を一貫して継続、学生教職員一体とな

った教育体制を継続維持することができた。第6学年主任に任命されて今年度で5年目を迎える大須賀直人教授（小児歯科学講座）を中心とした教員と、学年委員長の長尾将平君をはじめ、岩崎将和君、石川幸佑君らの学年委員が率いる学生組織および学事室を中心とする全学職員が有機的に結合することにより、休日を含めた毎日の教育管理体制を構築できたことは素晴らしいことであった。

今回の国家試験総出願者数は3669人であったが、実際の総受験者数は3157人。未受験者は512人で、昨年より43人増加し、各大学において国家試験受験者は一層厳しく

絞られている。総合格者数は昨年より37人多い2006人となり、2000人の大台を回復した。既卒・新卒を含めた全体の平均合格率は、63・5%、国立・公立大学は73・3%、私立大学は60・1%であった。過去最低であった昨年（第115回）の合格率61・6%よりは上昇したが、過去最低3位の低い合格率となった。

厚生労働省歯科医師国家試験制度改善検討部会による諮問により、今回の歯科医師国家試験から、令和5年版の新しい改訂版出題基準からの問題出題となった。また、必修問題（80題）においてはX2タイプ（2つ選べ）が採用された他、従来の3領域別の合格基準は、総論（一般問題100題）と各論（一般問題80題と臨床実地問題80題）の2領域別に設定改定された。

合格基準は、総論65%、各論69%、必修80%であり、各領域の合格基準は従来の領域別合格基準とほぼ同様であったが、必修問題中6問を含む合計15問の採

第5学年生7人が 河北医科大学と交流 オンライン臨床実習交流会

点除外などの取り扱いがなされた。本学の建学の理念に基づく信頼される歯科医療人および研究者の育成のためには、歯科医師



オンライン交流会で質問する本学学生



河北医科大学口腔医学院の馬院長ら

本学と姉妹校関係にあり、毎年学術交流を続けている中国・河北医科大学とのオンライン臨床実習交流会が2月8日（水）、両校を結んで行われた。

本学側は、宇田川歯学部長のほか川原一郎学生部長、生化学講座の中村美どり准教授、河北医科大学の卒業生でもある総合歯科医学研究所の楊静講師、学生代表として第5学年の相浦昇平君、網野竜朗君、葛上瑠さん、苦瀬隆史君、中村葵さん、前田風華さん、松浦宏季君の7人が参加した。通訳は楊講師が務めた。

両校の学生活動を紹介するビデオ上映の時間には、河北医科大学側は、大学の施設の概要から、専門教育プログラムを実施する様子、歴史や伝統文化も反映した学校行事、名所旧跡の紹介まで幅広い内容を伝えた。本学の学生たちは、解剖学の学びの一環で学生たちが描いた精巧な解剖図画が映し出されると、その精緻さに感嘆の声を上げていた。

宇田川歯学部長は「長年友好関係を続けてこられたことに感謝している。今回の交流はコロナ禍のためWebだが、来年度以降はぜひ学生を連れて訪問したい」と述べた。

学生代表で参加した相浦君は「国も環境も違うところでの学びの違いを感じた。患者に対する意気込みがすごいと思った」と感想を話していた。

武副学長は「医学に国境はなく、医は仁術である。両大学の交流が永遠に続くことを願っている」とし、本学の学生の訪問を大いに歓迎するとあいさつした。口腔医学院の馬哲院長は、

生が協調して歩む6年間の教育・研究・診療体制の整備が必須であり、益々の発展を期待したい。（歯学部長 宇田川信之）

今こそトルコに恩返しするときだ

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島 勲

今月号は『プレジデント』3月31日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、トルコ・シリアで起きた大地震の支援活動に関する記事を要約して紹介します。

トルコ・シリアにおいて大地震が発生した。多くの人々が建物の倒壊に巻き込まれて亡くなったという。私がショックを受けたのは、建物が跡形もなくなり小さな瓦礫が積み重なった倒壊現場の映像や写真だ。これは鉄筋を使わない手抜き工事が原因なのではないかと直感した。トルコの司法当局はこうした手抜き工事や違法建築に対する責任追及の動きを強め、2月25日までに建設業者など184人が逮捕された。徹底的に追及して二度と悲劇を繰り返さないようにしてもらいたい。

日本政府は地震発生直後に国に到着できたのは、ターキッシュ

ユエアラインズ成田空港支店のサーカン・グンドゥズ支店長の協力が大きい。サーカン氏と私はもう20年近い友人で、私がトルコに行ったときには、いろいろとサポートしてくれる。

ターキッシュユエアラインズでは、東京―イスタンブール間の直行便を1日2便運航している。日本政府の緊急援助隊70人以上の席を急におさえることは厳しいと思っていたのだが、サーカン氏が予約客に連絡を取り、一人ずつ事情を説明して、援助隊の人数分の席を用意してくれたのである。もちろん、二次隊の医療チームのときも同様の対応だった。さらに国際協力機構の救援隊には通訳がいなかったため、日本語もできるターキッシュユエアラインズの職員3人を無償で同行するように手配してくれた。

日本からトルコへの支援活動を支えてくれるサーカン氏の存在をこの機会に多くの読者に知



トルコ南東部カラマンマラシュで崩壊した建物

ってもらいたいと思う。サーカン氏は本当の「サムライ」だ。そして、トルコにはもう一人「サムライ」がいる。トルコにおける有数の財閥、チャルック・ホールディングスの会長、アフメット・チャルック氏だ（2014年に本学で講演し名誉博士号授与＝本紙註）。彼は30年以上にわたり日本企業と共同でインフラ輸出をはじめとしたプロジェクトを実施しており、日本とトルコの経済関係を強化している。この活動が評価

され、令和元年には勲三等にあたる旭日中綬章を日本国から授与されている。私はこのチャルック氏とお互いを「兄弟」と呼び合い、家族ぐるみの付き合いを続けているのだが、彼の規格外の行動には仰天してしまった。今回の大地震を知るや否や、避難民を輸送するためのバス250台、トラック250台分の物資、大型給水車17台を迅速に提供した。それだけにとどまらず、仮設住宅を200棟建て、毎日5万人分の食料支援と、生活に困った避難民に当面の生活費として現金1万5000トルコリラ（約11万円）を支給しているという。大財閥の会長とはいえ、あくまで一個人がこれだけの支援を行っているのだ。チャルック氏の支援は現金支給だけで約9億円にも上るようで、私財をなげうって自分の国を守るうとする「サムライ」の姿に、思わず目頭が熱くなった。トルコは親日国といわれ、歴史的なメフテル軍楽隊のレパートリーに「さくらさくら」があるほどだ。日本とトルコの交流が深まったきっかけは、1890年のエルトゥールル号遭難事件だといってよい。台風のため、和歌山県沖で遭難したトルコ船の乗組員を地元の串本町の住民が救助したが、トルコ国内で広く知られ、教科書にも掲載されたほか、映画化もされた。それから100年近い1985年、イラン・イラク戦争で、イラクのフセイン大統領（当時）がイラン上空の飛行機に対する無差別攻撃を宣言した際、イランのテヘラン空港に取り残された日本人216人を国外に脱出させてくれたのがトルコ航空機だった。同じくイランに残っていたトルコ人は陸路で帰国し、救援機を日本人に譲った理由をトルコ側は「エルトゥールル号の恩返し」とだけ説明している。次は、日本がトルコに恩返しをする番だ。

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授

笠原 浩

1960年代のわが国は「高度経済成長」の最中にあった。この十年間に国民総生産は年平均で10%の成長を記録し、「もはや戦後ではない」の言葉どおり人びとの生活環境にも多少なりとゆとりが感じられるようになってきた時代である。

敗戦直後には餓死者や栄養失調者が珍しくはなかったものだが、食料事情が著しく改善された結果、一時代前の子どもたちには夢にも見たことがないような甘くておいしいお菓子や飲み物も自由に手に入る時代となった。コカ・コーラやバヤリース・オレンジなどが広く知られるようになったのも、この頃からだ。

衛生環境も大きく好転した。数年前までは多くの人がびとの命を奪っていた赤痢や腸チフスなどの伝染病は次第に影を潜めた。発疹チフスや日本脳炎なども媒介昆虫（現代人はシラミを見たこともないだらう）の駆除でほぼ根絶された。ペニシリンを始めとする抗生物質の登場によって、多くの感染症が治癒するようになり、「不治の病」と恐れられていた結核（1950年までの日本人死因のトップだった）患者にも、明るい未来が開けてきた。

60年代はベビーブームの影響もあって子どもの数が多かった時代だが、この時代の子どものちは食糧難時代に育った子どもたちに比して著しい体位・体力の向上が認められていた。かつては多くの子どもたちを夭折させていた急性伝染病や小

児結核の脅威はすでに過去のものとなり、極端な偏食児以外ではもはや栄養失調のおそれもあり得ない。少し前までは罹患率がほぼ100%に近かった回虫や蛭虫などの寄生虫も、尿尿（わが国では人糞尿を農作物の肥料とすることが定着していた）処理法の改善と化学肥料の普及で消滅していった。

ところが、多くの疾病が制御可能となつて減少していく中で逆に急増してきた病気があった。そのひとつが学校保健の現場で大きな問題となった「ムシ歯（歯の齲蝕症）」である。学校歯科医が口腔衛生週間に表彰しようと思つても「ムシ歯ゼロ」の子が皆無といった状況が生じてしまった。

齲蝕歯の数は砂糖消費量と見事に比例すると言われていた。わが国の状況はまさにその通りだった。敗戦前後の食糧難時代には50%を切っていた齲蝕罹患率は、経済成長とともに急激に増加し、6年ごとに実施される厚生省の歯科疾患実態調査では、57年には79%、63年には84%、69年には86%と記録されている。しかもこれは、5歳以上の永久歯についての数字で、乳歯は含まれていないし、この時代の高齢者の多くが歯を失っていた（つまり齲蝕ゼロ）ことをも考えれば、「歯がある人でムシ歯がない人」はきわめて稀な存在だったことになる。

60年前の歯科医療(3)

この「ムシ歯の洪水」はベビーブーム世代の子どもたちに容赦なく襲いかかっていた。69年の歯科疾患実態調査によれば、乳歯が生え揃ったばかりの3歳児ですでに87%が罹患し、5歳児では罹患率98%、1人あたり平均9.2本のムシ歯があるという惨状となっていた。

この「ムシ歯の洪水」はベビーブーム世代の子どもたちに容赦なく襲いかかっていた。69年の歯科疾患実態調査によれば、乳歯が生え揃ったばかりの3歳児ですでに87%が罹患し、5歳児では罹患率98%、1人あたり平均9.2本のムシ歯があるという惨状となっていた。

歯科医療現場での活躍誓い巣立ち

衛生学院卒業式

2022年度衛生学院卒業証書授与式が3月7日（火）、本学講堂で行われた。歯科衛生士を目指し、励まし合いながら学んできた卒業生33人が、晴れやかな表情で式に臨み、卒業証書を受け取り、慣れ親しんだ学び舎を後にした。



卒業証書を受け取る衛生学院卒業生

式典で矢ヶ崎 雅理理事長はまず、本年度卒業生の就学期間である3年間が終始、新型コロナウイルス感染症の流行と重なったため、実習でも講義でも苦労が多かったことを振り返り、学生たちの努力をたたえた。歯科衛生士は、社会的需要も高く、今後ますます活躍が期待される専門

職であるとし「社会人となり忙しい日々になるが、けがには気を付けて、元気で有意義な人生を送ってほしい」とはなむけの言葉を贈った。

笠原悦男院長は「良き衛生士となる前によき人間たれ。これが皆さんの原点で、よき人になり、信頼を得られる歯科衛生士になつて社会に貢献してほしい」とエールを送った。在校生を代表して、2年生の奥野まいさんは「これまで培った知識と技術を發揮して、それぞれの場で活躍ください」と祝福した。

卒業生を代表してあいさつした小林 紬さんは「今日まであきらめず、みんなと学び続けられたのは先生方の支えがあったから。これからさまざまな困難に直面することがあると思うが、目標を持って、活躍できるよう努力していきます」と決意を語った。

式典では表彰式も行われ、特に優秀な人物としても優れた学生ら、計12人を表彰した。表彰を受けたのは次の皆さん。

日本口腔インプラント学会 関東・甲信越支部学術大会 歯科補綴学講座・樋口教授が副大会長

日本口腔インプラント学会第42回関東・甲信越支部学術大会が2月18日（土）、19日（日）

の2日間の日程で、松本市のホテルブエナビスタにおいて開催された。

本大会は、歯科補綴学講座の樋口（筆者）が副大会長となり、信州大学と連携しながら準備を進め、光学印象および衛生士ハズオンを企画し、座長を務めた。参加者は、3社の光学印象機器、および2社のAEDを実際に操作した。それぞれを比較できる機会となったため、大変好評であった。

樋口は、「インプラントって本当にいいの?」と題する市民公開講座も担当し、インプラント治療の素晴らしさ、注意点について講演を行った。

なお、2月18日は本学の共用試験OSCEと日程が重なったが、19日においては本学歯科補綴学講座の山口葉子講師、歯科放射線学講座の森こず恵助教がポスター発表を行い、いずれの



活発な情報交換の場となった支部大会（筆者は左）

（歯科補綴学講座 講師 樋口大輔）

理事会報告

効率的な管理を行い安定的運営を実現する

学校法人松本歯科大学の第205回理事会、第146・147回評議員会が3月23日（木）に開催され、2023年度の事業計画および予算案、中期計画などの案件が審議され、いずれも満場一致で承認可決した。



挨拶をする矢ヶ崎理事長

【主な会議事項】

- 1. 中期計画（2023～2027年度）案
- 2. 2023年度事業計画
- 3. 2022年度補正予算案および2023年度予算案に
- 4. 2023年度内借入限度額の承認

会議事項1～4について詳細な説明がなされ、承認可決された。なお、2022年度事業計画の目標および概要は次のとおり。

【事業計画（目標）】
（Ⅰ・教育・研究）

1. 歯学部

松本歯科大学（歯学部）は、1972年4月1日に開設し、本年度で52年目を迎える。歯学部は、建学の理念を具現化し、人間教育全体を教育目標とし、人間としての倫理に基づき「良き歯科医師となる前に良き人間たれ」という教育方針をモットーに、歯科医師として社会に貢献し、歯科医学の発展に寄与できる人材育成を目指している。



学長
川原 一祐



理事長
矢ヶ崎 雅

役職教員



学務部長
中村 浩彰



図書館長
金銅 英二



歯学部長
宇田 川信之



総合歯科医学研究所長
小林 泰浩



大学院歯学部独立研究科長
平岡 行博



学生部長
大須賀 直人



病院長
樋口 大輔



東京診療所院長
矢島 安朝



大学誌編集主幹
笠原 浩



副歯学学長
川原 一郎



衛生学学長
笠原 悦男



副病院長
佐藤 晶

①入学定員充足率の向上
②歯学部教育の質の保証と向上
③退学者、除籍者の低減
④標準修業年限内での卒業率の向上
⑤現役学生の歯科医師国家試験合格率の向上
⑥新管理システムの導入

2. 大学院歯学部独立研究科・総合歯科医学研究所
松本歯科大学大学院歯学部独立研究科は、学部の講座を主体とした研究科ではなく、総合歯科医学研究所を基盤にした独立研究科で、2002年12月19日に設置許可を受け、2003年4月1日に開設し、本年度で21年

し、共同研究を進め、世界に通用する最先端の研究に取り組んでいる。

①入学定員充足率の向上
②大学院教育の実質化
③標準修業年限内での学位授与の促進
④研究者、大学教員の養成
⑤世界水準の研究活動の推進

3. 衛生学院
松本歯科大学衛生学院は、1976年4月に開校。1977年3月に専修学校として設置認可を受け、本年度で48年目となる。

衛生学院は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授し、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

今日、人口の高齢化が進行するに伴い、老後のQOLを支える柱として、歯と口の健康の意義が再認識されるようになり、口腔健康管理の担い手としてその活動分野はますます広がっている。チーム医療の推進が強調されるなかで、歯科医師をはじめとする多くの職種と協働して専門性を発揮できる、質の高い歯科衛生士を送り出せるよう、教育内容の一層の充実を図っている。

①社会のニーズを踏まえた実践的な歯科衛生士の育成
②授業内容の改善
③新卒者の歯科衛生士国家試験の全員合格
④入学定員増・収容定員増に係わる申請・届出
⑤入学定員の確保と優秀な入学者の確保

（Ⅱ 病院・診療）
①人材の育成
②医療収益の向上
③特色ある医療体制の確立
④医科歯科連携の充実
⑤新型コロナウイルスを含めた感染予防の強化

（Ⅲ 管理・運営）
病院の収支改善、学生募集における募集人員の確保、それ以外のコスト削減を基本とする。予算に基づく適正な予算執行および予算外の支出については、大学運営上必要不可欠な対応を優先させつつ、その執行にあたって十分な検討を行い、引き続き効率的な管理・運営を行う。

①人材の育成
②医療収益の向上
③病診連携の強化
④医科歯科連携の充実
⑤新型コロナウイルスを含めた感染予防の強化

（Ⅳ 施設・設備の維持管理）
①施設・設備の維持管理
②省エネルギー対策
③設備の更新
④図書館では、利用者のニーズに応えた蔵書管理および、学術情報の構築と提供を行う。

⑤新型コロナウイルス感染拡大防止
⑥新規人材の確保及び、優秀な若手人材登用を進め人員体制整備を実施する。定年退職（予定）者の業務引き継ぎを進めつつ事業継続可能な人員体制構築に向け、中途採用を含め人員の確保に努める。

（7）2012年度より各部署における業務の効率化と省人化により削減した経費の維持に努めつつ、経費の削減を実現して安定的運営を実現させる。

（8）予算外経費については、内容を精査の上、緊急の案件に限り実行、必要に応じて内容の変更、金額の修正などを行う。

（9）大学への寄附金について、趣旨を明確に伝え、学内行事やホームページ、刊行物などを通じて寄附金の増収に努める。

（10）歯科医師国家試験の合格率の高さや特待生制度をアピールし、募集人員96名を確保する。

2023年度予算

2023年4月1日～2024年3月31日

(単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	予算金額	科目	予算金額
学生生徒等納付金収入	2,100,740,000	人件費支出	2,390,880,177
寄付金収入	18,000,000	教育研究経費支出	1,513,723,135
補助金収入	264,000,000	管理経費支出	825,056,162
付随事業・収益事業収入	1,670,000,000	借入金等利息支出	0
借入金等収入	0	借入金等返済支出	0
その他の収入	1,205,600,000	施設設備関係支出	594,328,000
前年度繰越支払資金	2,905,808,417	その他の支出	731,200,000
		翌年度繰越支払資金	2,108,960,943
収入の部合計	8,164,148,417	支出の部合計	8,164,148,417

豚顎を用いて 外科手技を学ぶ 第5学年歯周外科実習

2月22日（水）の終日、本学実習館101実習室にて第5学年66人、臨床研修歯科医の希望者10人を対象に豚顎を用いた歯周外科実習が開催された。

本実習は、吉成伸夫教授が赴任した17年前より毎年臨床実習終了直後の第5学年生を対象に行ってきたもので、卒前教育力



歯周豚顎実習を行う学生

リキュラムで診療参加型実習をさらに充実させるために導入されたものである。

第5学年生にとって歯周外科手術は、臨床実習中に見学や介助を行うが、実際に自分で切開、縫合するのはこれが初めての経験となる。豚顎は歯周組織の構造がヒトに似ており、外科手技を学ぶのに大きさがちょうど良く、卒業研修コースや大学の実習セミナー等では多用されているものである。

が、本学のように卒前の学生を対象に教育に導入している大学はわずかである。

実習は切開、歯肉弁（全層、部分層、複合）の形成、各種縫合（単純、マ

ットレス）、臼歯部におけるウエッジ手術、フラップ手術・マウスを用いた歯周組織再生療法まで一連の流れを実際に体験して、理解を深める内容である。臨床研修歯科医師にはアドバンコースとして、吉成教授が根面被覆術等の歯周形成外科手術を中心に指導した。

実習は少人数の班にインストラクター1人がつき、細かく丁寧に指導できるよう配慮して

り、実習中は学生からも意欲的に質問が飛び交い、熱心に取り組んでいる姿勢が伺えた。

毎年実習後のアンケートでは、「切開や縫合は実際にやってみないとわからないので良かった」との意見が多い。臨床実

習を通じて歯周基本治療から歯科からの出題であり、近年は臨床実地問題が難関化しているの

で国家試験の勉強に入る学生達にとって大いに理解の向上になると思う。

（歯科保存学講座 助教 石岡康明）

受験者は、午前と午後のグループに分かれて診療にふさわしい服装で集合した。学生さんは緊張しながらも、懸命にそれぞれの課題に取り組んでいた。

試験終了後の合同反省会の際に、機構派遣監督者の新潟大学の瀬尾憲司先生と愛知学院大学の鈴木一吉先生より、順調に問題なく試験が実施されていたとの総評をいただくことができた。

今回のOSCEは2024年の公的化のためのトライアルの試験となる。歯学系でも課題内容の変更が決定され、再試に關してもCBTと同様に共用試験機構の管理となる予定である。

学生たちのさらなる知識と技能の習得が期待される。

2023年度共用試験OSCE実施において、休診などのご協力をいただいた病院の皆様、設営・実施にご協力いただいた大学設備関連・警備関連の職員の皆様、並びにスタッフとしてご参加いただいた教職員の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

（OSCE小委員会委員長 中村浩志）

臨床実習前の技能・態度・知識を評価 共用試験歯学系OSCEを実施

2月18日（土）第4学年81人を対象に、2023年度共用試験歯学系OSCE（Objective Structured Clinical Examination）客観的臨床能力試験が実施された。

共用試験機構派遣監督者2人、外部評価者6人をお迎えして実

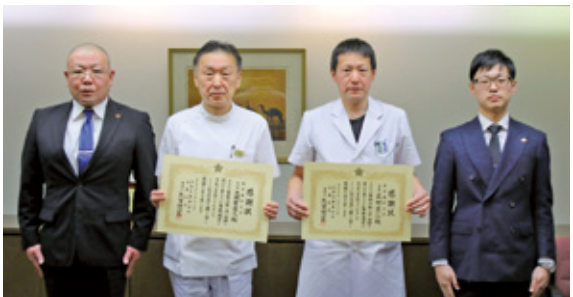
格のない学生が臨床実習において医療行為を行うために事前に学生の能力（態度・技術・知識）適性を評価するための目的で実施されている。OSCEは、模擬患者さんとマネキン模型を用いた模擬診療形式で行われ、主に技能、態度を評価される試験である。受験者は、6つの課題を5分間ごとに場所を変えて行っていく。この試験は全課題70点以上が合格基準である。本学では、OSCE担当の教職員が、前日の午後より試験のために、会場となる病院診療室における設営を行い、リハーサルを行った。

当日も早朝から試験の準備を行い、翌週の診療に支障の無い様、試験当日に反省会や片付けまでを行った。今回は、総勢167人の教職員がそれぞれの担当部署での職務を遂行した。

大須賀教授と正村准教授に感謝状 山梨県警の捜査に協力

2月13日（月）に、本学本部館において山梨県警察本部刑事部長・比留間一弥警視正より、小児歯科学講座の大須賀直人教授、正村正仁准教授に感謝状が授与された。

これは山梨県内にて発生した、ある児童虐待が疑われる事案に両名が捜査協力したためである。山梨県には本学のような学生教育、研究、歯科臨床を統合的に行うことができる歯科専門機関が存在せず、加えて日本小児歯科学会より小児歯科診療における高度な臨床的技術と知識を備えていると認められている日本小児歯科学会専門医も在籍していない。このような経緯から、隣県に設立されている本学小児歯科学講座の両名に対して捜査協力がなされることとなった。



贈られた感謝状を持つ大須賀教授と正村准教授（右）

ら寄せられた質問や疑問に対して、大須賀教授、正村准教授は長い臨床経験に基づいて懇切丁寧な回答を行い、これが捜査事案解決の大きな進展につながった。感謝状授与式の際には、清水文太郎警部補より本学および大須賀教授、正村准教授への感謝の言葉が述べられ、併せて本学にて行われた捜査協力が事案の解決に向けて大きく役立っている事が報告された。これに対して大須賀教授は、「小児歯科医療に携わる我々にとって、このような協力を行うのは当然のことです。今回我々が行った歯科医学的見地からの捜査協力が、本事案の真相究明と子ども達の幸せに繋がれば幸いです」と語った。

様々な事件や事故において、歯科医学的な知識がその解決に役割を果たすことは少なくない。本学は歯科医学専門機関として、今後もこのような依頼に對しては最大限の協力を行ってゆく所存である。

事故防止策や発生時の対応を再確認 第3回医療安全講習会

2022年度3回目の医療安全講習会が2月20日（月）、本館601教室で開かれた。病院職員のうち約80人が出席し、身近なところで実際に起こった医療事故を検証しながら、事故防止に向けた対策や事故発生時の対応を再確認した。

医療安全管理委員会委員長で麻酔科の澁谷徹教授は「繰り返し、異物の誤飲と針刺し事故について」と題して、院内感染防止対策委員会委員長で口腔外科の栗原祐史教授は「院内感染防

止対策マニュアルについて」と題してそれぞれ講義した。

澁谷教授は、修復物や補綴物の試適から起きた誤飲事故を振り返り、ガーゼを敷くこと、ブリッジの場合はデンタルフロスを付けることで再発を防ぐことなどを求めた。栗原教授は針刺し・切創・血液体液等による曝露時の対応を詳しく解説。皮膚への曝露の場合は「直ちに流水で10分以上洗い流すこと」の徹底を求めるなど、適切な対応を確認、周知した。



医療事故について解説する栗原教授

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

塩尻市体協から本学に感謝状

塩尻市体育協会の賛助会員である本学に、協会から感謝状が贈られた。15年以上にわたって協会の趣旨に賛同を続け、財政局の支援を通して市民のスポーツ振興に貢献した功績が認められた。感謝状の贈呈は、1月14日（土）に市レザンホールで開かれた協会の法人化20周年記念記念式典の中で行われ、丸山智之会長から出席した本学法人事務局の沼田三博次長に手渡された。

人事異動

〔採用〕

根橋 寛実
（事務局・派遣職員）
1月24日付

〔兼務解く〕

小澤亜希子
（事務局・事務職員）
3月8日付

〔兼務〕

安西 正明
（事務局・事務職員）
3月8日付

〔配置換え〕

川原 一郎
（事務局・事務職員）
3月10日付

〔定年退職〕

相馬 啓子
（教授・耳鼻咽喉科学）
3月31日付

長谷川博雅
（教授・口腔顎顔面外科）
3月31日付

山本 昭夫
（教授・口腔顎顔面外科）
3月31日付

安西 正明
（教授・口腔顎顔面外科）
3月31日付

矢ヶ崎 裕
（法人事務）
3月31日付

保科 芳子
（法人事務）
3月31日付

〔任期満了〕

倉澤 郁文
（特任教授）
3月31日付

4月行事予定

5日（水）〜7日（金）
オリエンテーション（第1学年）

6日（木）
入学式（歯学部・大学院・衛生学院）

7日（金）
健康診断（第1〜3学年）

10日（月）
オリエンテーション（衛生学院第3学年）

前期授業開始（第1〜3学年）

12日（水）
前期授業開始（衛生学院第3学年）

13日（木）
前期授業開始（衛生学院第3学年）

受験生の皆さんへ

一日体験入学

① 5月21日（日）
② 6月18日（日）

※ 5、6月開催分のみ掲載
開催時間 9:30〜15:00（受付 9:00〜）

●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など

※ 参加希望の方は、本学ホームページまたは電話にてお申し込みください。

お問い合わせ

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp